

令和7年11月柏の集い案内

宣言

天風会の目的は、いつも愛と誠の心を持って生き、お互いに思いやりの気持ちで助け合う兄弟姉妹の数を殖やし、それによって世界の真の平和を確立することである
天風会

先月、映画「YUKIKAZE」を観ました。雪風は大東亜戦争で生き抜いた“奇跡の駆逐艦”と言われています。映画では、魚雷攻撃が懸念される極限状態の中で、沈没艦船の乗員救助という勇気ある行動を何度もしていることが、指揮官たちの意見の対立の中で描かれています。また、寺内正道艦長は海軍兵学校の出身で、戦闘の最中に天蓋から三角定規を出して米軍機からの爆弾の落下軌道を読み、航海長の肩を軽く蹴って左右の舵を指示する場面があります。そのような巧みな操艦により、壮絶な攻撃をかわしたようです。ちなみに、杉山彦一第4代会長が乗艦されていた戦艦伊勢は、レイテ沖海戦の第4次空襲で空母が沈没しているため集中攻撃をうけ、午後5時半からのわずか3分間に約85機による爆撃と11本の魚雷攻撃を受けたにもかかわらず、すべて回避し「鬼神のようだった」そうです。「たてつづけに上がる水柱と砲煙で、外がまるで見えない。艦橋の中が真っ暗になるほど」だったようで、小沢長官は「伊勢を遠望していたが、実に壮絶だった、長時間にわたり何度も艦体がみえなくなってもうダメかと思ったが、まことにみごとな回避だった」と艦長に労いの言葉を伝えられたとあります。

映画では、海軍兵学校のシーンもありました。昨年1月の柏の集いの案内文では、米山さんが海軍兵学校出身で天風先生とのつながりもあった最高齢 YouTuber 一阿さん（既にお亡くなりになられているようですが）を紹介されていました。また、今年7月の案内文では松尾さんが、東郷元帥が天風先生の講習会を毎月受講されていたことや、クンバハカを日常忘れずに行っていたことなどを紹介されています。また6月の案内文では、日本一の数学者といえる岡潔に関する記事が掲載されています。岡潔の随想は最近復刻されており、書店にも文庫本として並んでいます。柏の集いの中島さんに教えていただき読んだところ、「この人が世に在る間は、陸海軍青年将校は憚って騒ぎ出さなかったのです。誠に真我の人でして、『身をもって国家の休戚に任ずること三十年』とは、この人のために用意された言葉のように見えます。」という文章に当たりました。また、「美しい日本の情緒の人だったに違いないと思います。」と記されています。

このように眺めてみますと、天風先生に関わる人物たちが、さまざまな角度から柏の集いのなかで登場していました。あらためて、柏でのお集まりに深く感謝しています。ありがとうございました。

今月の案内担当 廣津信義

【11月柏の集い行修会】

1, 日時・・・11月15日(土) 9時30分～12時 会費500円

2, 場所・・・柏諏訪神社社務所

3, 勉強会・・・真人生の探究 担当：倉林

※勉強会後サイゼリアで食事会

1, 《天風先生の言葉》

笑いと人生

西洋の諺に「和やかな笑顔の漂う処に、運命の女神は、その慈愛の手を差し伸べる」というのがある。考えてもみよう、一体何のために人間だけが笑えるように出来ているかということ・・・それは人間は万物の霊長として、造物主の意図に副うべく、創造の大使命を遂行するためにこの世に生まれたのである、一面に於いては他の生物とは比較にならない各種の恩恵を多大に享けている。がまたその反面にはその人生に大きな負担を負っている。従ってその実際生活を営む際種々雑多な計り知れない苦しみと悩みとがある。

そして、そも笑いなるものは、その苦しみや悩みに疲れる心や体を、程よくこれを以て調和せよという造物主の天意を以て、人間に与えられたものに他ならない。現にその証拠には、苦しんだような時とかまたは悩みに襲われたような時、何かおかしい事があって思わず笑えば、どれだけその苦しみや悩みが軽減するか判らない。

第一いつも笑顔でニコニコしている人に病弱な人があるかである。否笑顔で悲観している人やその精神を消極的にしている人は断然ない。・・・

笑いと「へそ」の関係

さてそこで然らばこの「へそ」なるものと、笑いというものと、そも如何なる関係があるかという、要約すれば、お互いが笑うと、必然的に臍がむくむくと動転する。

・・・即ちへそが動くにつれ、へそを中心として背中に通じている腹筋というものが、矢張り動く。この腹筋の振動伸縮という事が極めて重要なので、複式呼吸などの効果の一部もやはりこの点にあるといえるので、即ちこの腹筋のリズミカルな振動と伸縮とが、腹筋神経を通じて脳髓に良好な再反射作用を誘致し、その結果全神経系統の興奮を鎮静する。

・・・そこで造物主は、人間個体の生命養護のために、感謝すべきは全神経系統の興奮鎮静の一手段として笑いを与え、「へそ」の作用を必然的に「応用するように、巧緻な設計の

下に生体を仕組まれたのである。

さればこそ、笑いを礼讃し笑いを推奨するのである。

「研心抄 笑いと人生」

『 快^{もろ}しいね 』

村里やすゆき

われらに要るものは
銀河を包む
透明な意志
巨きな力と熱である

われらの前途は輝きながら峻険である

宮沢賢治の碑



2010年6月17日

日本縦断26日目花巻着。初めての休息日をとって、宮沢賢治が教壇に立った花巻農業高校で巡り会えた言葉。

(天風会講師 村里泰由)

2、《生きる本質を考える・後半》

(株)アビリティトレーニング代表
木下晴弘

素晴らしい人生の根幹にあるもの

日本人なら誰でもご存知の本田宗一郎さん、松下幸之助さん、稲盛和夫さん、このお三方はもうこの世にいらっしゃいません。それからイチローさん、大谷翔平さんは子どもでも知っている国民的ヒーローです。この人たちに共通しているのは何でしょうか。年齢はバラバラ、学歴もバラバラです。

共通していることはたった一つ、「**多くの人を喜ばせた**」ということです。この一点でその人たちの人生は素晴らしいものになり、輝きを放っています。ただ、多くの人を喜ばせようと思ったら、誰もができないことを達成しないといけません。それには高いスキルが求められます。だからその人たちはそれぞれの得意分野で、めっちゃくちゃ高いスキルを身につけています。でも、とんでもない高いスキルを手に入れても、それでサリンを作ったら人生終わりです。

ということは、人生を素晴らしいものにするために手にいれるべきものは「**高いスキル**」と、「そのスキルをたくさんの人の幸せのために使おうとする**熱いハート**」、この二つです。教育に携わる人たちはここを外してはいけません。高いスキルを確実に手に入れる方法はたった一つしかありません。それは「やり続けること」「学び続けること」です。

イチローさんは「小さいことを積み重ねることが、とんでもないところへ行くただ一つの道である」と言いました。これを「積小為大の法則」といいます。二宮尊徳の言葉です。オギャーと生まれた時から高いスキルを身につけていた人なんて誰一人いません。みんなゼロからのスタートです。何度も失敗し、挫折し、裏切られ、それで「次こそは」と、彼らは歩みを止めなかったんです。そして気が付けば高いスキルが身についていたんです。では「熱いハート」はどうやって手にいれるのでしょうか。

人間というのは、無いものは人に与えられません。お金もそうですし、心もそうです。他人に幸せを与えられる人間は、自分が幸せだと思っている人間だけです。お聞きします。「あなたは今、心から幸せを感じていますか？」「生まれてきて本当に良かったと心からそう思っていますか？」 生れてきただけで社会から必要とされる、価値ある愛されるべき存在だと心から思えることを「存在承認」といいます。もし皆さんがご自身のことを「どうせ私なんて」とか「私なんか愛されていない」などと思っているとしたら、皆さんの熱いハート、「存在承認」は打ち砕かれています。きっと子供の頃に奪われたのです。どうやって奪われたか。生れた直後は、多く親はわが子に「生まれてくれてありがとう」という存在承認があったはずです。

ところが、それがいつからか「行動承認」になってしまうのです。「寝返りができた」「ハイハイができた」など、できたことばかりを認めると、子供は「〇〇ができないと愛されないのではないか」「価値ある子と言ってもらえないのではないか」としてしまうのです。

2007年にハーバード大学が『幸福優位性理論～ポジティブ心理学』という表題で論文を発表しています。これにすごいことが書かれています。

「我々は努力すれば人生は成功し、成功によって幸せになれると教わってきたが、これは大間違いだ」 「人間というのは幸せでポジティブな気分の時、初めて知的好奇心が起こる。この刺戟から起こる努力は、楽しみながらの努力、挫折のない継続性の高い努力で高いスキルをいとも簡単に手に入れさせてくれて、その結果、成功につながっている」

そして、次の一文が衝撃的です。「自分は幸せだと思える人ほど良い結果を生んでいる」

つまり成功するから幸せになるのではなく、元々幸せ感あふれる人が成功していただけたのです。もう一度お聞きします。「あなたは今幸せを感じていますか?」「生まれてきて良かったと思っていますか?」

あなたは生まれてきただけで社会から必要とされる価値ある、愛されるべき存在なのです。だから子供にもそれをしっかり伝えてください。それが素晴らしい人生を手に入れるための本質であり、根幹なのです。

(公益財団法人船井幸雄記念館主催講演会)



イチロー米野球殿堂入り
祝賀パレード弓子夫人と共に

〈川柳〉

笑えない昭和が滲む親父ギャグ

(ラジオ深夜便・お題にじむ)

へそくりは一度しまうと出てこない

(シルバー川柳)

係長はんこが薄いと言えなくて

(女子会川柳)

鶴千年亀は万年人100年

(よみうり時事川柳)

初講談扇子叩くも声震え

(藤本益談)



『エッセイ』

伊集院 静

理屈は、やることをやった後での

無駄口の類いのものだ

失恋は、そりゃしないで済んだ方がイイに決まっているが、失恋をした人間の方を、私は信用する。

色男や、ボンボンは、なぜ失恋した方がよいのかをわからず、バカのまま一生を終える。甘チャンの人生なのだ。なぜ甘チャンか？ それは苦味の味覚を知らないからである。料理にとっても、酒にとっても、苦味が上質への必須条件である。口にするものでさえそうなのだから、ましてや人の生き方であるならなおさらである。

若い人から（子どもでもいいが）、何か一言と頼まれると、男子なら “孤独を知れ” と書くことがある。

人と人之間と書いて人間だ、わかるかね？ と口にする人がいる。何を言ってやがる。それは理屈で、道理、真理とかけ離れたものである。

風の中に立て

3、《商売の極意》

田中真澄
社会教育家

商売の極意は熱と光を相手に与えること

私たちは皆、一人ひとりが人生の経営者

私たちは皆個人企業であり、一人一人が人生の経営者です。定年や退職というのは人間社会が決めた単なるルールに過ぎず、本来定年も退職もないのが人生というものです。

ところが、現役時代はビジネスの第一線でばりばり活躍していた人が、定年とともに人生の目的を見失ってしまうというケースがとて多いのです。退職する前後、「これからはゴルフや旅行などで第二の人生を満喫しよう」と意気揚揚だった人たちも、一年、二年と経つうちに、何とも言えない虚しさに襲われるようになります。最近でも高校の同窓会に参加した友人が「田中君、毎日が退屈で退屈で死にそうだよ」とぼやいていましたが、彼に限らず多くの人たちの実感なのだと思います。一度限りの人生の大切な時間を、何の目的もないままだに費消している、こんなもったいないことはありません。

サラリーマンは退職と同時に「所属価値」を失ってしまいます。大企業の権威をバックに肩で風を切る勢いだった人も、会社の社員という所属価値を失ってしまえば、誰からも相手にされなくなるのです。その時、問われのは「存在価値」です。

言い換えれば「どこの企業のどういう肩書の方ですか」から「あなたには何ができますか」という問いへの答えが求められるのです。これからの人生は百年時代をいきいきと生き抜く上では、自分自身の「生き方革命」がとても重要になってきます。

人間は命懸けで打ち込めば生きられるのだ

私に存在価値の大切さを気づかせてくれたのは父でした。父は元軍人で私たち一家は戦後、今の韓国・釜山から日本に引き揚げてきました。ところが、日本が独立するまでの六

年半、父はパージによって公職に就くことができず、過酷な行商で家族の生活を支えたのです。日本国内が食べるものに事欠いていた頃までは、行商でもなんとか食い繋いでいましたが、物が豊かになるにつれて厳しさは増していきました。それでも父は決して行商をやめようとせず、朝から夜遅くまで人の二倍、三倍、汗水流して黙々と働きました。私はそういう父の後ろ姿をとおして「人間は命懸けで打ち込めば生きられるのだ」と教えられたのです。

父は軍人だっただけに商売には全く不慣れでしたが、ある人からこう教わったそうです。「田中さん、商売というのは簡単なんだよ。太陽のように生きればいいんだ。太陽は二つのものを人に与えてくれる。一つは**熱**。熱意を持って人に接すれば、その熱は自然と相手に伝わる。もう一つは**光**。光を与えて相手を照らし、関心をもってその人の存在を認めてあげることが大事なんだ」

父は生前、「俺は商いのことは何も知らないが、この二つだけは心の支えにしてきた」と私に話していました。私が個業家（個人事業主）として自分の存在価値で勝負しようと思ったのも、そんな父の影響です。これまで有料の講演会だけでも六千五百回以上も行ってきましたが、私の伝えたいメッセージを凝縮すれば、父から教えられた「**熱と光を相手に与えよ**」に尽きるように思います。

（人生100年時代の生き方教科書 致知出版社）

《読書コーナー》 本の紹介
女性講談師として生きて

日本講談協会会長
神田 紅

「紅流」

波乱万丈！講談道45年の軌跡！

講談師として初めて「中村天風伝」を披露された女性講談師。天風先生の修猷館後輩にあたり、天風会とのご縁もあり講談に興味ある方にはお薦めです。

編集者



神田紅師匠

柏の集いの皆様

ご支援の皆様

11月に入り秋が深まってまいりました。皆さまお元気にお過ごしのことと思います。私事です。前から講談に興味を持っていましたが、10月講談神田紅師匠の紅塾に入塾しました。現在月1回紅塾で講談を学んでいます。神田紅師匠は福岡修猷館高校出身で天風先生の後輩にあたります。師匠はそれがきっかけで『運命を拓く』中村天風伝を平成9年3月東条会館で初演披露されました。(堀田講師との対談・志るべ2019年9月号掲載)紅師匠は現在上野広小路亭、新宿亭等々の舞台で締めめのトリを取られています。また日本講談協会会長として講談界の発展と弟子の育成に力を注がれています。

天風先生は修練会雨の日は、山岡鉄舟の講談をよく披露されていたとのこと。迫力ある人物像を語る講談に魅かれ素人芸として磨いていければと思っています。いずれ「柏の集い」節目の時に、神田紅師匠をお迎えして講談「中村天風伝」をご披露いただくことを夢みているところです。

令和7年11月1日 柏の集い代表 藤本益久

※お詫びと訂正

10月案内巻頭文15行目 「気傷つきません。」→「傷つきません。」です。

中村天風財団柏の集い連絡所 郵便番号277-0835 柏市松ケ崎 1077-17 藤本 益久方
TEL, FAX 04-7133-2785 携帯:090-1117-0943 e/mail:spzb8ev9@diary.ocn.ne.jp
〈ホームページ検索:天風会柏の集い・・日程、案内文掲載〉

神田紅師匠

